

夢 望み 期待

2022-8-10 野口幹夫

テーマは「米寿の夢」ですが、その言葉にふさわしくない話で恐縮です。今、私が抱えているささやかな望みのようなことを書きます。

米寿の今、すでに運転免許を返上された方々が多くなっていますが、その方々の社会貢献にまず敬意を表しておきます。私はまだ駄目です。車好きですし、車がないと一日も過ごせません。自宅が茅ヶ崎の海岸近くはいいのですが、実は不便です。車は必需品です。

今乗っているのはホンダのN-ONEです。6年で約7万キロになります。そろそろ乗換時期です。我が家に備え付けたソーラ発電の蓄電のためにも、次の車は電気自動車と考えていました。先日ドライブ中に前をe:Sのロゴをつけている小型を見つけました。e:Sだからてっきり電気自動車だろうと見当をつけて 近くのダイハツにいきました。それは電気自動車ではなかったのです。しかしそこでいろいろと発見があり、次期車としてダイハツTANTに決めました、何より高齢者向けの安全装備がよくできていたからです。これが付いていれば、私が過去4年に起こした4件の事故がすべてなくなります。

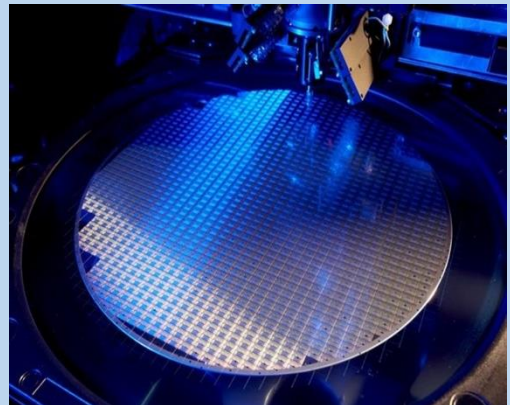


そして購入条件も良かったのです。頭金を

払えばあとは5年間のささやかな月払いで5年後には新車に乗り換えることができます。5年後こそ今度は電気自動車で自動運転車になっていると期待します。ここまでが前置きです。

ここからが期待 願い ささやかな夢といったたぐいの話です。

実はここまでは6月に起きた出来事です。6月に契約をした TANT は、まだいつ来るのかわからないのです。これまで日産・トヨタ・ホンダと何度も買い替えてきましたが、いつも即納でした。ダイハツの営業所は、8月には納期の予想ができますと言っていました、未だに返事がありません。原因は世界的な半導体不足で、自動車工場が停滞をしているからなのです。コロナで従業員が出勤できず、工場が止まったのかと思いきや、原因はそう簡単ではないようです。まず発端は2019年の米中貿易摩擦で中国の半導体輸入が止まったこと、コロナで在宅勤務が増えタブレットパソコンの需要急増しその用途の高度な IC 半導体の需要の急増 自動車用には手が回らなくなったこと、そしてむろんコロナで東南アジアの生産の停止、さらにはウクライナ紛争で半導体用資源不足 などなど、今の世界の災難が一挙にここに集約されていたのです。これでは TANT はいつ来るのかわからないはず。町で TANT を見かけると、自分の目が芸術品でも見るような、うらやましそうなまなざし



で見つめていることに気づきます。「ことは簡単には実現しないから夢となるのだ」と知りました。もし いままで通りすいすい乗り換えていれば、「夢」など起こりようもありませんでした。

次にまだ来ない TANT ですが、5年契約となると早次の車に想いが走ります。

5年後といえは2028年ごろ 自動車技術にも夢のようなことが起きそうです。まず全個体電池による電気自動車の登場です。今はリチウム電池です、走行距離が短く充電に時間がかかります。その欠陥をいっき

よに克服する全個体電池の登場。今世界で開発競争が進んでいます。日産は2028年量産化と宣言しています。



次に AI を使った高度運転支援システムの登場です。そうなれば人間の運転はもはや主役ではありません、補助者の役割です。高度運転支援システムの開発には大型スーパーコンで行うようなディープラーニング AI を車載にできる高速半導体チップの開発が必要です。やはり課題は大きそうです。

全個体電池の開発といい、AI 運転支援といい。それ用の IC チップ製造技術といい、それを実行していってくれるのは、我々の孫たちのような技術者たちです。理系分野で活躍をめざす私の孫を見ていると、我々の若いころとは質が違うな、まるで宇宙人だなと感心してしまいます。分野こそ違え、この世代の活躍こそ5年後の後継自動車に載せる「夢」なのです。